

### 四国参拝のご案内

コロナ禍で延期をしていました。四国巡拝を再開いたします。

今回は高知県の室戸岬から足摺岬の先、伊予国にある四十番観自在寺までを参ります。ただし、今まで利用していた宿坊での宿泊がコロナ禍で出来ず、今回は旅館へ二泊となります。また、お参りの順番も少し変更をいたします。ご希望の方はご連絡をお願いします。

(先着順二十名)

令和三年十月号

上之坊だより

日時・十一月十七日(水)～十九日(金)二泊三日

宿泊場所・(旅館)

一日目 室戸ホテル明星

二日目 伊野かんぽの宿

料金・四万六千円(暫定)

を上限とし、人数により減額します。

ただしコロナの影響や各種の割引などが不透明なため詳細はお申し込みの方にその都度ご案内します。

### 真言宗の基礎知識(その四十四)

(弘法大師の系譜)

高野山の自然は、梅雨の時期は雨が多く降り、湿度も高くなります。また、雷も多く、昔から高野山の山内では雷火による建物の消失は数え切れないほど繰り返されてきました。

今でも町の一番中心部に消防の建物と、消防車がいるのもその名残であると言われています。弘法大師が開かれた「修行の道場」でありましたが、建物が揃っていきのは大変長い年月をかけてのことでした。実際に、つい最近再建された伽藍(がらん)の山門である中門(ちゅうもん)は、八代目のもので、幾度となく火災によって消失と再建を繰り返して、百七十二年ぶりの再建となっています。

昔からこのような高野山の堂宇の再建に当たって活躍をしたのが、高野聖(こうやひじり)という人達でした。

西暦九九四年七月に雷火によって大塔・金堂・僧坊などが全焼する事態となった時、その復興事業の資金を全国を回り集めたのもこの聖たちでした。

再建のために高野山の素晴らしさを説き、高野山浄土の信仰を話して回ったことで、平安時代中期から弘法大師の信仰と合わさって、高野山が「霊場」としての特別な場所になってきたのです。

西暦一〇二三年十月、時の関白、藤原道長はそのような市井の声に押されて高野山にお参詣をされたのですが、時の権力者のそのような行動が契機となって、高野山と院政権力者の接触が密になり、上皇が高野山内に一院を建立したり、荘園を寄進するなどされて、高野山の霊場信仰が平安から鎌倉期にますます広がりをを見せてきます。

### あとがき

長く暗いトンネルを抜けてやっと以前の生活に戻れると思いたいが、おそらくこれからの生活は今までの日常とはすこし違うものになるのではないかと思います。

細菌やウイルスだけではなく、天災や大気汚染など、社会のありかたや生きかた、人との付き合いにも注意する事が必要であるかもしれない。もうすこし、自然にも相手にも想いを持って接する必要があると思う。自分心の考えではなく、戦国時代の人々のようにすこし人生を達観して、何が起ころうともグラグラしない、万が一の覚悟が日常に必須になるのかも知れない。

# 上之坊だより

令和3年10月15日  
第91号  
福山市大門町大門325  
電話 (084) 941-1031  
fax (084) 941-1168



## 弘法大師聖語抄

こころくらとき すなわ あとこころ ことごとわざわ  
心暗き時は 即ち遇う所 悉く禍いなり

まなこあきら すなわ みちら ふ みなくすり  
眼明かなれば 則ち途に触れて皆宝なり

弱り目に祟り目(よわりめにたたりめ)という諺があります。なにをやっても思うようにならず、まったく救われないような状況になる事を指します。

まったく関係の無い事にまで思いをめぐらして原因を探ろうとして、ますます悪循環に陥ってしまいます。

お大師さまはそんな時は止まってリセットして、周囲を見渡し自分を見つめ、明るい方向に顔を向けなさい、と説かれています。

方法は人によって様々あるでしょう。仕事で行詰まった人が四国のお遍路に出て新しい境地を見つけたり、病気で寝たきりになった人が、新聞の俳句の投稿を始めたりと千差万別のはずです。

コロナ禍の流行で、出来ないう事が増えて、ずいぶん生活様式が変わってしまいました。生が、せつかくの人生です。生きる事を楽しみ、前向きになりたいと思います。

お施餓鬼施食供養者名簿

ご寄付者名簿

袖刷りあうも他生の縁

この諺(ことわざ)は間違えて覚えている人が多いのではないだろうか。「たしよのえん」の「他生」と「多少」は全く違う言葉です。「多少」だと道で袖と袖が触れ合う事があるのも、少しは(多少は)縁があるのだ、の意味になってしまい、偶然にはあまり深い意味ではないように思えてしまいます。

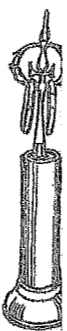
しかし、正しい「他生」であれば、袖が触れ合う事であっても、今生(今の人生)だけではなく、他生(または「多生」)つまり、自分の生まれる前、輪廻を繰り返してきた過去からの縁が、この今生で再び出会っているのか、逆に、今はあまり深い縁ではないかもしれない事が、生まれ変わって遠い未来のどこかでは、もともとと大きなつながりを持つようになる序章であるかも知れません。

私達の日常は単なる偶然で動いているのではなく、全ての出会いや行いには原因があり、結果となります。その結果はまた新しい原因につながります。前世の出来事や、来世で起こる事の原因や流れの中で今があります。ですから、小さな縁(出会い)であっても、粗末にせず今を大事にして、未来に良い影響になるように受け継いでいかなくはなりません。

ありがとうございました

総代会開催の告知

定例総代会を土砂加持の終了後に行います。総代様にはご出仕を願います。世話方は来年一月の予定です。



土砂加持法要 開催

昨年からのコロナの状況も好転し、少しずつでも日常が戻るように願っております。恒例の土砂加持を十一月十三日土曜日午後一時半より開催いたします。

今年は形式を以前の方法に少し戻し、感染症に気をつけて実施をいたしますので、ご協力をよろしく願います。

お参りの方の人数制限はいたしません。会場の広さを昨年同様にご広く取って対応をいたしますが、マスクの着用をお願いいたします。

当日は午後一時半より法話、二時よりとうば供養があり、引き続き土砂加持のお勤めを四時前まで予定しております。

なお、法要で「板とうば」を造り、お墓に建てたい方はお申し込みください。供養料を含めて三千元となります。

また、お墓に塔婆を建てにくい方は紙の塔婆をつくり供養を行います。供養料は千五百円です。

加持したお土砂をご希望の方は法要終了後にお分け致しますのでお残り願います。板とうば申込みの方には無料でお分け致します。またお土砂のみご希望の方には三百円のお賽銭をご用意下さい。

板とうばや供養のお申込みは別紙にてお申込み下さい。当日参加できない場合は後日の受け取りでも結構です。

なお、明年の年忌名簿については、本堂正面に土砂加持の日より掲示をいたします。

どうぞ、先祖供養をご希望の方はお参りいただきますようにご案内申し上げます。

これからのお寺の行事について

① 今秋十一月十七日から三日間で四国巡拝を再開する予定です。 昨年の十一月に二十三番で終わっておりますので今回は二十四番から四十番までの行程です。今後コロナ禍が小康を保つていれば三月八日から十日頃に愛媛県のお参りを考えます。「G.O. T.O. トラベル」が再び実施されれば利用をしますが、特典が無くてもお参りはしたいと考えます。

② 土砂加持は形式を戻して実施をいたします。マスクをしてご参加ください。手指消毒は用意をいたします。人数の制限はいたしません。今回も昨年同様、場所を広く取ってお勤めをいたします。総代会は土砂加持の終了後に実施いたします。

③ 玄冬会は昨年同様にすす払い・大掃除と一緒に実施をいたします。日程は十二月四日(土曜日)を予定しております。

④ 得度式は来年春三月に実施をいたします(日時未定)。ご希望の方は来年一月から受付をいたします。

⑤ 月並護摩祈願は毎月実施いたします。

⑥ 星祭りは状況次第ですが、従前の形式に戻して実施したいと存じます。

⑦ 高野山参拝も五月十一日・十二日を中心にお参りしたいと考えております。